CORE
Metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
Provided by Kumamoto University Repository System

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	小詩會詠草 ： 文苑
Author(s)	夕闇; 星陵; 野人; 聖花; 芒村
Citation	龍南會雜誌, １０６: ３７-３９
Issue date	1904-05-25
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/5697
Right	

Kumamoto University

小詩會詠草

○樂聲

あけぼのを迎へて高き樂の音廣野の花の精をさますか　夕闇

春の夕おのづときれし琴の糸の乱れ心地に雨の音きく　星陵

これのみの形見の笛やとり出でゝひゞかぬ音をし獨り忍ばむ　野人

○河

わか戀ふる山の緑に命得てとはにさゝやく野のいさゝ川　夕闇

春若き姿朽ちざれ野の川にふとうつしたるわが水鏡　星陵

花一里舟漕ぎ上る夕ぐれに星影うすく水にくだくる　聖花

○春思

行く水に散りゆく花に若き身の春は思のいかでなからむ　芒村

春はたゞただとこしへの命なりうれひの曲に榮葬るな　夕闇

草にねて雲流れゆく空をみよ春の思はとこしへにわく　聖花

○若草

みどり野にもゆる若草ねぼろ夜はいかなる夢の影宿すらむ　芒村

うらぶれて行む野邊の新草や昔の夢のまたわたかへる　野人

歌の譜を若草の野にひめれきて水に下りたつ鳥うつくしき　夕闇

天地も神の惠の春にあひて榮ゑうるはしき若草の色　聖花
ならばるれよ若き小草に籠りたる夢が香きかむちさき胡蝶に　星陵
あたゝかき神の息吹にもゑるめて香漂ふ野邊の若草　野人

○劍

夜の幕のかげきゆる所野にたちて劍あらへば水に影あり　夕闇
血に餓ゑて冷ゑし劍よ魔のあらぶ叫びきゝてや夜に鞘ばしる　星陵

○旅

花野ゆく旅の若人新らしき小笠にかきし歌筆細き　星陵

○浪

夕月の磯によりきし流れ藻の末の運命は浪のさゝやく　星陵
あけぼのゝ浪わきかへるわたづみの千尋の底に樂の音ぞする　芒村
夕なゝ沈む夕日を吊ひてほろびをうたふ岸のさゞなみ　野人
靈の水森を流れて常夏のうたをさゝやくさゞなみの音　夕闇

○城

もやに高き若葉の城のふもと原驢馬の鈴の音遠く消行く　星陵
幾春か廣野の主と仰がれし夕日にはゆる名なし古城　野人
うす月の影ほのかなる夕空に淡く浮べる高舘の城　芒村

○新　緑

新しき匂みなきるみどり野の高き息吹に月はくもれり　芒村

さびは梅に榮は櫻にきゝわたり若き緑に命得しわれ　星陵

よもすがら青葉の風に彳みて葉守の神のさゝやきゝかむ　野人

新しき森の緑をついばみて夕うたなき鳥のかげかな　夕闇

○潮

夕べ重き春の潮の音にきけよ海なるうたは皆こゝにあり　夕闇

海原の底の宮居の春のうたかあしたわき立つ潮の音ぞする　芒村

海底の春美しや櫻貝潮紫のとばりかゝぐる　星陵

○小詩會に入會を希望せらるゝ方は編輯室内田まで申込まれよ

正誤

前號俳句欄に於けるこもし火會吟草中夕闇翠琴藤坊春の子等の作は皆紫溟吟社の吟草に入るべきものなるを誤て混同したる由前編輯委員より申し來りたればこゝに正誤を置く